

研究所図書室だより 2014年11月



発行: 浦添市立教育研究所 TEL: 098-876-7522 FAX: 098-876-7222 MAIL: uraken5@urasoe.ed.jp (図書司書あて)



月刊誌 11月号記事 PICK UP!!



『授業力 & 学級統率力』
教室で“大人気の読書活動”
面白レシピ 48



『月刊教職研修』
検証「命の教育」



『児童心理』
子どもの怒り

※その他の月刊誌については、研究所ホームページでも紹介しています。『切抜き速報教育版』、隔月刊誌『特別支援教育の実践情報』、週刊誌『教育資料』の記事については、随時ブログにて紹介予定です。

こんにちは、研究所図書室の知花です。
寒くなったり暖かくなったり、寒暖の差が激しいこの頃です。風邪には気を付けて、師走のための体力づくり&読書を！

忙しい先生へのメンタルヘルス

今回は、今年の『総合教育技術』11月号の特集の一部を紹介します。

『「教師の多忙感」は克服できる!』を総力大特集として、解決のカギが示されています。そのひとつに、メンタルヘルスマネジメント力というものがあります。

『「教師の多忙感」は、物理的な仕事量以上に、忙しいと感じる「心の問題」が大きい。』とのこと。特に、管理職に就いている方の精神的支えの有無がとても大きいそうです。

そのポイントをまとめてみます。

- ①職場環境（職員室など）の雰囲気をよくする。
- ②教師の多様性を認める。
- ③普段からの声かけで相談しやすい関係・環境づくりをする。
- ④横のつながりや、学外での人のつながりをもつ。
- ⑤自分だけで完璧におこなうのではなく、周囲の力を信じる。
- ⑥いろんなことを楽しむ。

少しずつでも意識することが、心の健康につながるのかもしれない。

新着図書のご案内

☆『気持ちをあらわす基礎日本語辞典』森田良行

「心の動きや気分を表す言葉は、使い方を間違えると意味が通らないばかりか、相手に不快感を与えてしまうことがある。（略）自分の気持ちが上手に伝えられるようになる、読んで楽しい日本語辞典！」

☆『子どもの未来と教育を考える「動ける子」にする育て方』川合正

「大人はどのように育てればいいのか。思春期の子どもへの対応、いじめや体罰・虐待に着目。」

☆『生徒に『私はできる!』と思わせる超・積極的指導法』長谷川博之

「14年の間、日々中学生と関わる中で見えたのは、自尊心を向上させてほしいという願いであった。つまり子どもの教育の際、子どものセルフエスティーム（自己肯定感）を高く保つことが何より大切だ。」

今月も最後まで図書室だよりを読んでもくださりありがとうございました。
(知花)

この図書室だよりは、Microsoft Wordのテンプレート「ニュースレター」と、研究所ホームページで紹介されている素材サイトを利用してつくられています。（浦添市立教育研究所HP→<http://urasoe.ed.jp/uraken/>）